

トビウオ通信 (9月号)

http://www2.pref.shimane.jp/suisi/ (TEL 0855-22-1720)

《 平成 14 年夏の漁況を振り返って 》

ばいかご漁業

石見部および出雲部のばいかご漁業は、小型底びき網漁業休漁期の6月から8月にかけて行われています。今期7隻が操業を行いました、うち1隻は新型船であったため、ここでは6隻の集計結果です。

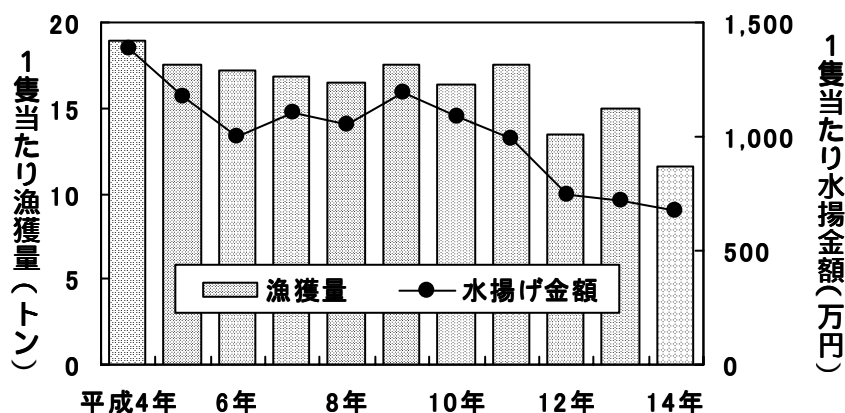


図1 石見部および出雲部ばいかご漁業におけるエッチュウバイの1隻当たり漁獲量と水揚げ金額の推移

今漁期の石見部(5隻)および出雲部(1隻)のばいかご漁業における総漁獲量は92トン(前年比80%)、総水揚げ金額は6,008万円(前年比91%)で量・金額とも前年を下回りました。総航海数は時化の日が多かったため前年より9日減り、185日でした。また、エッチュウバイの1kg当たりの平均価格は581円で、500円台を割り込んだ前年(482円)を上回りました。

図1に1隻当たりのエッチュウバイの漁獲量と水揚げ金額の推移を示しました。1隻当たりの漁獲量は11.6トン(前年比77%)、水揚げ金額は671万円(前年比93%)で、量・金額ともに平成4年以降、最低の水揚げ状況となりました。特に水揚げ金額は漁獲量の減少、魚価低迷の影響を受け、平成4年の約1/2まで減少しています。

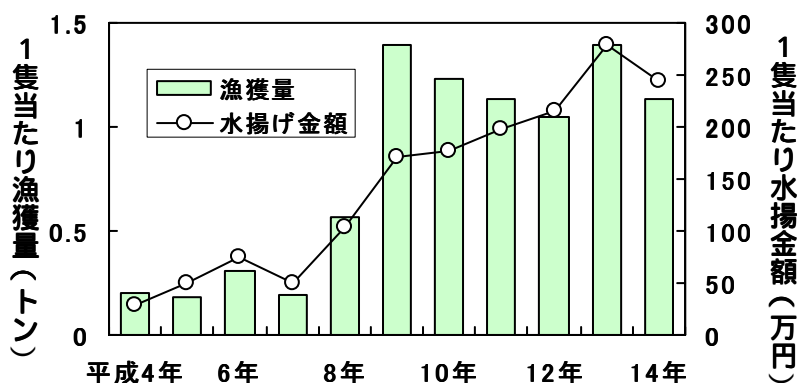


図2 石見部および出雲部ばいかご漁業におけるエビ類の1隻当たり漁獲量と水揚げ金額の推移

一方、エビ類(モロトゲアカエビ、イバラモエビ)の漁獲量は6.8トン、水揚げ金額は1,466万円、量・金額とも前年を下回りました。

図2に1隻当たりのエビ類の漁獲量と水揚げ金額の推移を示しました。1隻当たりの漁獲量は1.1トン、水揚げ金額は244万円でした。平成9年以降、漁獲量には増減の変動が見られますが、水揚げ金額は漁獲増により安定した水揚げ状況となっています。しかし、数年前に比べ、漁獲物の小型化が目立ってきており、資源動向に注意していく必要があります。

しいら漬け(まき網)漁業

シイラなどの回遊魚には物陰に寄り添ったり、集まったりする習性があります。これを利用した漁法が「しいら漬け」です。海面に漬木(つけぎ)と呼ばれる竹の筏(いかだ)を浮かべ、流れない様に固定しておいて、そこに集まった魚を網で捕獲するという「まき網漁業」の一種です。本県ではこの漁法が盛んで、主に6~8月、県中・西部の石見地区を中心に、小型底びき網漁業の休漁期に行われます。

本年6~8月漁期の「しいら漬け漁業」による石見地区(大田・和江・五十猛・仁摩・浜田)の水揚げ状況は、漁獲量が586トン、金額は2億1,563万円と、量は平年を約10%下回りましたが、金額は平

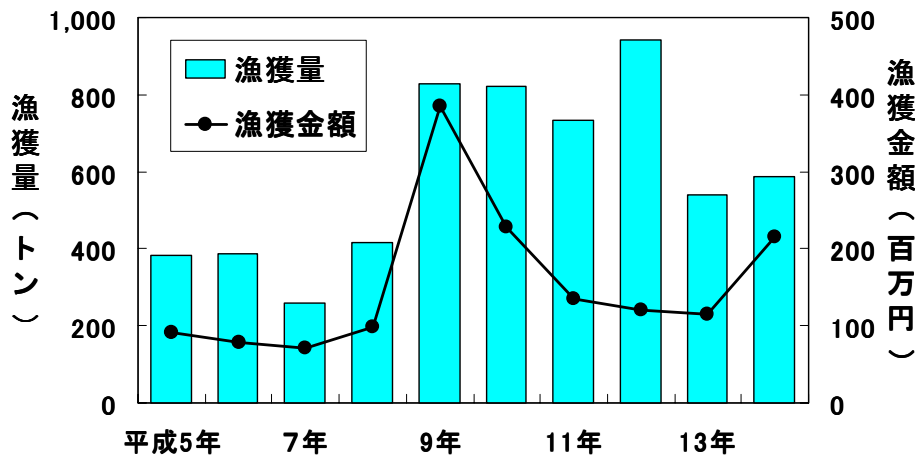


図3 しいら漬け漁業の漁獲動向

年を約65%上回り好調な漁模様となりました(図3)。これは例年に比べ単価の高いヒラマサの漁獲割合が多かったことによります。総水揚げ金額の76%がヒラマサで、22%がシイラ、その他の魚種はブリ、メダイ、クロマグロ(ヨコワ)、カワハギ類などが混獲されました。

とびうお漁

トビウオ類は冬の間は南方で生活していますが、暖くなると産卵のため山陰沿岸に回遊してきます。島根県には毎年5月から7月に来遊し、刺網、定置網、船曳網、まき網などで漁獲されます。アゴ野焼き(竹輪)を始め、アゴだし(焼きアゴなど)、開きなどの加工原料となり、もちろん、鮮魚としても利用されます。本県で漁獲されるトビウオ類はそのほとんどが、ホソトビウオ(丸アゴ、丸トビ、小目)とツクシトビウオ(角アゴ、角トビ、大目)です。

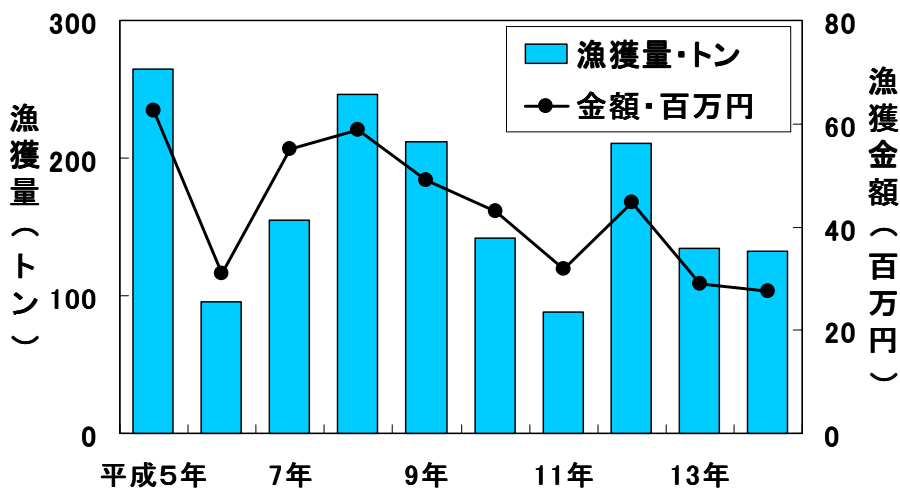


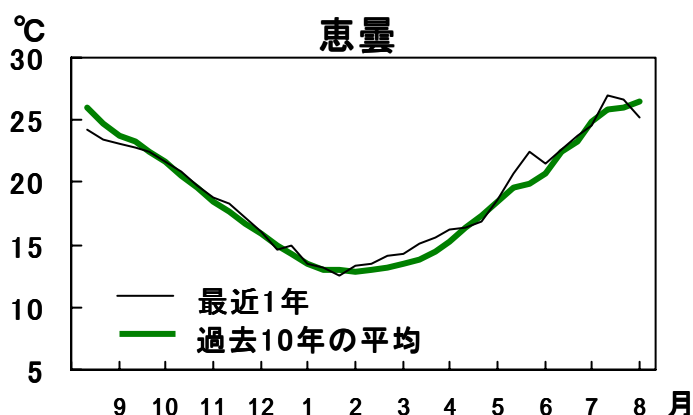
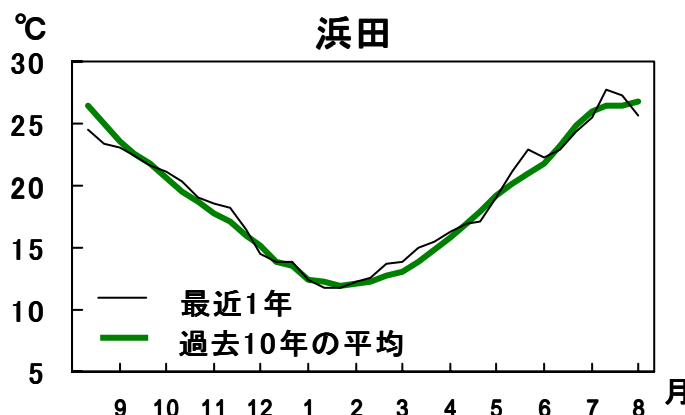
図4 トビウオ類の漁獲動向

本年5~8月漁期の石見地区(大田・和江・五十猛・仁摩・浜田)の水揚げ状況は、漁獲量が132トン、金額は2,760万円と、量は23%、金額は38%平年を下回り、低調な漁模様となりました。例年に比べ単価の高いツクシトビウオの割合が多かったので期待されましたが、逆に、平年の7割程度の魚価安となったのが大きく影響しました。

《 8月の海況 》

8月	月平均	平年差	評価
浜田	26.9	0.3	平年並み
恵曇	26.2	0.1	平年並み

8月の月平均水温は7月に比べ浜田、恵曇ともに2.6 上昇しました。水温は8月上旬にピークを迎え、平年より早く下降し始めました。



島根・鳥取・山口県の各水産試験場が実施した海洋観測結果(9/2~6)によると、各層の水温は、表層(0m)が22.3~27.7(平年差は-1.8~+1.6)、中層(50m)が6.2~25.7(平年差は-6.8~+4.3)、底層(100m)が2.1~20.8(平年差は-5.8~+5.8)となっています。沿岸域の表層では約26の暖かい水塊が広く覆い、ほとんどの海域で「平年並み」となりました。中、底層では、隠岐諸島西北西約75マイルに冷水域があり、その東側には暖水が差し込んでいるようです。また隠岐諸島北北西~北方約120~155マイルには2つの冷水域が、北北東約100マイルには暖水域がそれぞれ見られ、複雑な水温分布となっていました。

山陰沿岸海域の水温は、表層では「やや低め~やや高め」、中層では「かなり低め~はなはだ高め」、底層では「かなり低め~はなはだ高め」となりました。

《 8月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量はマアジ・ウルメ・マサバ主体に170トン、総水揚げ金額は4,865万円でした。1統当りの漁獲量は57トンで、平年(過去4年平均)の57%、前年の93%となりました。水揚げ金額は1,622万円の前年の82%、平年の76%となりました。恵曇では、2ヶ統の操業で、マアジ・ムロアジ類主体に総漁獲量41.5トン、総水揚げ金額は2,043万円でした。浦郷ではマアジ・ウルメ・カタクチイワシ主体に総漁獲量650トン、総水揚げ金額は8,500万円でした。1統当りの漁獲量は217トンで前年の69%、平年の79%、水揚げ金額は2,836万円の前年および平年をやや上回りました。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、ケンサキイカを中心に105.9トンで、前年の2倍近い漁獲量となりました。一方、西郷のイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、ケンサキイカ、スルメイカを中心に36.1トンで、スルメイカは前年の3割程度でしたがケンサキイカは前年の2倍近い水揚げとなりました。浜田に水揚げされたケンサキイカの魚体は3~4段が主体となっています。

【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は148トン、総水揚げ金額は9,678万円、1統当たり漁獲量は21.1トン(前年比84%、平年比92%)、水揚げ金額は1,383万円(前年比100%、平年比132%)でした。漁獲の中心はムシガレイ(前年比100%)、アカムツ(前年比146%)、アナゴ(前年比175%)でした。

恵曇港の総漁獲量は67トン、総水揚げ金額は5,354万円、1統当たり漁獲量は16.7トン(前年比94%、
 平年比183%)、水揚げ金額は1,339万円(前年比105%、平年比245%)でした。漁獲の中心はムシガ
 レイ(前年比104%)、ヤナギムシガレイ(前年比90%)でした。

【ばいご漁業】

県西部および東部のばいご漁業は時化や海況の影響を受け、低調に推移しました。総水揚げは12.5
 トン、1,148万円、前年に比べ量は49%、金額は22%下回りました。エッチュウバイは銘柄「大」、「中」
 (殻高75~100mm)中心の漁獲であり、漁獲量は7.3トン、金額は566万円、前年を大きく下回りました。
 またエビ類の水揚げは1.3トン、327万円でした。

【定置網漁業】

県全体では漁獲量、水揚げ金額ともに平年と前年を下回りました。県東部ではブリ、カジキ類、マアジ、
 ウルメイワシが主体となっています。県西部ではコシナガ、マアジ、カマスが主体で、コシナガは前年
 の約2倍の漁獲量となっています。隠岐地区ではヒラマサが主体で、前年の約9倍の漁獲量となってい
 ます。その他ではカワハギ類、ケンサキイカの漁獲が多くなっています。

【釣・縄】

各地区とも漁獲量、水揚げ金額は前年を上回りましたが、ほぼ平年並みの漁獲状況となっています。各
 地区ともケンサキイカが主体となっており、前年の2~5倍の漁獲量となっています。その他では、県
 東部はサワラ類、スルメイカ、県西部はメダイ、アマダイ、マアジ、隠岐ではカサゴ・メバル類、キダ
 イ、メダイなどの漁獲量が多くなっています。

漁獲統計

平成14年8月1日~31日

漁業種類	水揚げ港	延隻数 ・統数	主要魚種	1隻(統)1航 海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	38	マアジ・ウルメ・マサバ	4.5ト	170ト
	恵曇	23	マアジ・ムロアジ類	1.8ト	41.5ト
	浦郷	43	マアジ・ウルメ・カタクチ	15ト	650ト
イカ釣り (5トン以上)	浜田	306	ケンサキイカ・スルメイカ	200Kg	61.1ト
	西郷	219	スルメイカ・ケンサキイカ	154Kg	33.8ト
沖合底びき網	浜田	22	ムシガレイ・アカムツ・アナゴ	6.7ト	148ト
	恵曇	17	ムシガレイ・ヤナギムシガレイ	3.9ト	67ト
ばいご	平田市	7	エッチュウバイ	285kg	2.0ト
	大田市	12	エッチュウバイ	383kg	4.6ト
	和江	7	エッチュウバイ	267kg	1.9ト
	仁摩	14	エッチュウバイ	282kg	4.0ト
定量網	浜田	57	コシナガ・マアジ・ヒラマサ	504kg	28.7ト
	美保関	100	マアジ・ブリ・ヒラマサ・サワラ類	208kg	20.8ト
	浦郷	27	ヒラマサ・カワハギ類・カジキ類	469kg	12.6ト
釣・縄	浜田	1003	ケンサキイカ・アマダイ・メダイ	21.7kg	21.8ト
	五十猛	459	ケンサキイカ・メダイ	43.3kg	19.9ト

1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量/延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。